

渡辺賢治 著

『漢方で感染症からカラダを守る!』

(ブックマン社)

漢方の力をもって、感染症を予防する・重症化させない・後遺症を軽くする。コロナ禍の今、伝統治療の知恵を生かす。

現在も新型コロナウイルスと対峙し続ける日本漢方医学の第一人者からのメッセージ。

漢方薬がCOVID-19の症状を改善した?

中国・武漢に端を発した新型コロナウイルス感染症の拡大はとどまる所を知らず、ワクチンの接種が進む中でもその猛威を振るい続けている。パンデミック(世界的流行)は収まる気配もなく、世界中のメディアに「COVID-19」という単語があふれている。

この本の著者である渡辺賢治氏は、学生時代から漢方の勉強を始め、北里研究所東洋医学総合研究所では、煎じ薬を中心とした伝統的な漢方を学んだ。慶應義塾大学医学部を卒業後、同大医学部内科学教室、米国スタンフォード大学遺伝学教室で

免疫学を学び、帰国後に、改めて漢方を、医史学、特に東西の薬史学に秀でた業績を残した元北里研究所東洋医学総合研究所長の

省が時限措置を講じ、初診であったも電話による診療が可能になった直後のことだった。

渡辺氏は「清肺排毒湯」という、今回の新型コロナウイルス感染症に対応して中国で新たに開発された漢方薬を処方して自宅に届け、リモートによる治療を開始したという。

この漢方薬を服薬した患者は、その夜に今までにないほど発熱し、咳も悪化、腹部膨満感がひどくなり、咽喉頭部が腫れた感じがしたという。ところが翌朝には38℃の熱ながら気分が良くなり、咽喉頭部の腫れ、腹部膨満感も治まって、2日後には体温も37℃前後となりそのまま解熱したという。

大塚医院院長、慶應義塾大学医学部客員教授を務めている人物である。新型コロナウイルス感染症の日本における流行にあつては、2020年の4月中旬に院長を務める「修琴堂大塚医院」において最初のPCR検査陽性者を治療することからスタートしている。それまで10日間に渡って、39℃以上の発熱が続き、2日前にPCR検査を受け、渡辺氏の受診

これは熱を利用するという漢方治療の考え方に基づく処方であり、対処療法として熱を下げようとする西洋医学の考え方とは根本的に違うものである。

当日に陽性が判明したという50代の男性の電話が起点だった。厚生労働

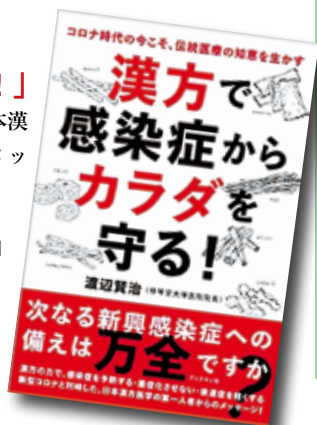
著者である渡辺賢治氏は語る。

ウイルスを叩くのではなく
生体防御能を強化する

「漢方で感染症からカラダを守る!」

新型コロナウイルスと対峙した、日本漢方医学の第一人者からのメッセージ!

出版年月日=2021年8月24日
著者=渡辺 賢治
出版社=ブックマン社
発行形態=単行本(四・六判)
ページ数:272ページ
ISBN:9784893089434
定価=本体1,600円+税



「漢方は病気を治すのではなく、人を治す。医学です。私の専門は内科ですが、内科に限らず種々の悩みを持つ人を治療してきています。また漢方は病気になる前の未病を治す点が優れています。病名が付かないような体の悩みは多々あるものです。特に虚弱な高齢者や小児には全員に漢方を飲んでもらうことによって健康維持とともに様々な病気の予防になると考えています」

なるほど、漢方医学というのは、直接的に病気と闘うのではなく、病気と戦おうとする体に作用するものということなのだ。

出版社の説明によれば、

「漢方の力をもって、感染症を予防する・重症化させない・後遺症を軽くする。現在も新型コロナウイルスと対峙し続ける日本漢方医学の第一人者からのメッセージ。コロナ禍の今、伝統治療の知恵を生かす」

とある。渡辺氏の文によれば、発熱や発汗、下痢などは人体に備わった武器であり、ウイルス感染の兆候をいち早く掴み、体内に侵入して間もないウイルスに対して、この人間の体が持つ機能を最大限に發揮させる

ことによって、発症を未然に防ぐ、あるいは軽症で済ませることが可能になるのだ。

パンデミックに対する漢方のメリットは

①漢方の薬理作用は、生体防御能を引き出すのが主であり、病理微生物が不明の時点から使える。

②耐性菌、耐性ウイルスを作らない。

③細菌に対しては抗菌薬の開発、ウイルスに対してはワクチン製造までの時間を稼げる。

④重症化が予防できれば、医療崩壊を防ぐことができる。

※本書より

と紹介されており、脅威となつているウイルスの正体が見えない段階から、患者の体内に備わっている生体防御能を引き出すことによって対応できるだけでなく、多くのメリットがあるということなのだ。著者は語る。

「こうした利点をもっと広く理解してもらうためには、感染症に対する漢方治療の基礎・臨床研究を積み重ねていく必要があるのだが、パンデミックに対して、漢方が使えることはもっと知られるべきだと強く

思う」

西洋医学を踏まえた解説で解りやすく漢方を紐解く

本書を読んで感じたのは、著者である渡辺氏が妄信的な漢方の推進者ではなく、きちんと西洋医学における理論や実績を踏まえたうえで、現代社会における漢方薬の役割とメリットを、解りやすく解説している点である。

例えば、コロナウイルスというのは本来は一般的な風邪のウイルスであること。その変異株がどんなものであるのか、そしてどうしてその変異株が恐ろしいのか。

こうしたテーマについて、本書を読むことによって、これまでより明確に理解することが可能だったのは、渡辺氏の西洋医学までもカバーする幅広い知見と知識によるものだろう。

本書は漢方の基礎知識から中国・韓国などの感染症に対する伝統医療の最新事情、感染症に罹りにくい体づくりまで、日本漢方医学の第一人者である現役医師が、感染症と対峙

した画期的な一冊なのである。

渡辺賢治氏が院長を務める「修琴堂大塚医院」のホームページにはこう書かれている。

「漢方医学の特長は病気ではなく、病気を持つひとの治療を目指すことです。

その目的のために、病気に苦しむ患者さまのその時の状態に合わせた漢方薬を選びます。漢方薬の選択はオーダーメイドであり、患者さまの詳しい病歴と診察の上で、その人にあった漢方薬を選択します。

漢方薬が持つ複合的な成分の組み合わせが、生体システムに働きかけ、最善の状態からずれた生体システムを正常に戻すことで、治療を目指すのです。

大塚医院は創業以来、正統的漢方治療を目指してまいりました。

様々なお悩みに対して、その人に応じた漢方治療をお届けしていく所存です」

漢方医療のみならず、新型コロナウイルス感染症について、あるいは人体における様々な生体防御能を理解するためにも、一読する価値のある1冊である。